

平成28年度 小竹小学校 学校評価まとめ

*** アンケートによる到達度**

かなりそう思う (4) そう思う (3) そう思わない (2) かなりそう思わない (1) → この平均値を掲載しています。

*** 達成度**

A →到達度の平均が3点以上

B →到達度の平均が2点以上

C →到達度の平均が1点以上

	質問事項	達成度	保護者	児童	教職員	保護者・教職員の意見	学校評議員の意見	改善策
1	学校は楽しい	A	3.3	3.4		○学業だけでなく、運動、文化、道徳など全面的に児童の健全育成に努めていると感じる。 ●登校していない児童について、学級の児童はどのように理解しているのか。	○「学校が楽しい」という気持ち が毎日のベースとなる。児童・保護者の評価は教職員の日々の努力の賜物。 ○不登校児童も学校に行かなくていいとは思っていない。ケースバイケースで対応すべき。	□指導力の向上、教育相談の充実を図り、児童・保護者と教師の信頼関係を構築する努力を続ける。 □不登校については、組織的に対応している。児童が学校や外とのつながりを保てるよう働きかける。
2	基礎学力の定着	A	3.1	3.4	3.3	●行事に熱心に取り組むのはよいのだが、学力をしっかり付けてほしい。 ●学級により進度に差があることがある。	○「授業がよくわかりますか」のアンケートで「かなりそう思う」と答えている児童が多く、肯定的にとらえている。	□学力調査との分析を元に、基礎基本を繰り返し指導する。また、主体的な学びのスタイルを身に付けさせる授業展開を工夫する。
3	算数の学力の定着	A		3.4	3.0	○自分に合ったペースで学習でき、安心感があった。	○研究授業では問題解決型の学習などさまざまな指導改善の試みが行われている。今後も継続してほしい。	□次年度も指導法改善加配教員や講師の配置を継続し、少人数指導を実施する。 □校内研究ではこれまで作成した課題改善カリキュラムの検証を行っていく。
4	学習習慣の定着 (家庭学習も含む)	A	2.9	3.4	3.0	○どの学級でも話を聞く態度の向上に力を入れており、課題にじっくり取り組むことができている。	○学習ができる子は時間の使い方がうまい。そうした自己管理ができるとよい。 ●児童は宿題だけすればよいと思っているが、保護者はそれにプラスした学習を期待している。	□環境面から難しい児童もいる。 29年度から導入する地域連携事業で放課後の補習等ができないか検討している。

5	パソコン等の電子機器の活用	B		3.5	2.6	●教室の機器環境は不十分。	●各教室のブラウン管モニターは教室の印象を古いものにしている。改善を願う。	□予算化できれば、教室のテレビを廃棄する。 □区のICT機器導入モデル校指定を検討中。
6	生活習慣の定着	A	3.0	3.4	2.8	○「小竹小ミニマム10のルール」が定着し、意識が高まった。	○児童の挨拶習慣は改善が見られている。引き続きよい生活習慣の定着に取り組んでほしい。	□挨拶向上の取り組みを重点化し、自分からすすんであいさつができる児童を育てる。
7	思いやりや優しさの育成	A	3.2	3.3	3.4	○たてわり班活動で互いを知り、学年の隔たりなく仲間意識が育っている。 ○困っていると上級生が優しく声をかけてくれ、助かる。 ●先生の前ではいい子だが陰で意地悪する子を注意深く見てほしい。	○小竹小の児童は素直であるからこそ思いやりや優しさを併せもっている。その素直さを地域の大人として一緒に褒めて伸ばしていきたい。	□たてわり班活動で高学年児童の意識が高まってきている。充実した活動ができるよう計画的な実施を継続する。 □ふれあい月間(5・11・2月)の取り組みや道徳授業の充実を図り、思いやりの気持ちを育む。
8	体育授業等の充実	A	3.4	3.5	3.0	○肯定的に受け止めている保護者が多い。	○なわとびカードの改訂など改善を継続して取り組んでもらいたい。	□取り組みの成果をまとめ、評価していく。発表する場を設定する。
9	外遊びへの児童の意識	A		3.6	3.2	●担任からの働きかけを継続中。	○担任の先生方のはたらきかけにも期待したい。	□学級遊び等で意識付けをしながら、教師も一緒に外で過ごす機会を増やし、楽しさを実感させる。

10	健康に関する 児童の意識	A	3.2	3.5	3.2	○全員がよい歯のバッジをもらう ことができた。家庭の意識が高い。	○高い家庭での意識が児童に影響 している好例である。	□給食後の歯磨きについては全校 一斉実施は難しいが、希望する児 童はやってよいことにしている。 □「早寝・早起き・朝ごはん」を推 進
11	事故・災害へ の児童の危機 意識	A	3.2	3.7	3.2	●スクールゾーンに侵入してくる 車があり、学童擁護員も困ってい る様子。	○事前の意識付けが大切だが、大 人が思う以上に事故や災害を怖が る児童もいる。難しい課題。	□交通安全教室、防災教室、避難 訓練、安全安心マップ作りなどの 体験を通して、「自分の命は自分 で守る」当事者意識をさらに高め る。
12	音楽活動の推 進	A	3.7	3.4		○音楽会を隔年開催にしてほし い。 ●図工にも力を入れ、さらに創造 力を高める取り組みに期待した い。	○小竹の森音楽祭だけでなく、吹 奏楽部の活躍など、小竹小と言え ば音楽である点が十分浸透してい る。	□来年度は展覧会実施で児童の発 想力や創造性を生かしたものにす る。 □音楽会は行事のバランスを考 え、3年サイクルの開催とする。
13	望ましい食習 慣	A		3.7	3.2	○旬の食材や練馬の野菜を使った メニューがあり、季節感を大切に した献立が立てられている。	□家庭でしっかりと食事をとって いることがうかがえる。	□食物アレルギー対応を徹底し、 事故なく給食が実施できるように する。 □地域と連携した食事の講演会を 来年度実施したい。
14	家庭・地域と の連携	A	3.5		3.1	○地域の方の協力により、児童は 町探検や職業体験に意欲的に取り 組むことができた。 ●ホームページに学校行事予定を 載せてほしい。 ●連絡網にどの番号を載せるか、 了承を得てほしい。	○地域コミュニティの拠点となる べく学校が努力している成果であ る。 ●なかなか PTA 役員のなり手が ないのが課題。今まで通り、では なく、その年その年に合わせた活 動を考えていけばよい。	□地域人材活用を進め、12月の 学校公開で地域スポーツの体験を 取り入れた授業を展開する。 □ホームページに年間行事予定を 載せる。 □連絡網、学校連絡メールの活用 について、より確実性の高いもの にする。